腎 臓 内 科

１．スタッフ

科長（兼）教授　猪阪　善隆
その他、教授１名、准教授３名、講師２名、助教６名、医員１０名
（兼任を含む。また、教授、准教授、助教は寄附講座を含む。）

２．診療内容

腎臓は身体の水・電解質の恒常性を維持する臓器であるとともに、エリスロポエチン・レニン産生、ビタミンＤ活性化などのホルモン産生器官でもある。外来及び入院では、主に以下のような疾患を対象とした診療を行っている。

・原因不明の蛋白尿や血尿、健康診断で発見される検尿異常の精査
・急性・慢性糸球体腎炎（溶血性連鎖球菌感染後急性糸球体腎炎やIgA腎症など）
・急性・慢性間質性腎炎（薬剤性腎障害など）
・ネフローゼ症候群
・急性腎障害
・慢性腎臓病（保存期の治療と透析療法への導入）
・透析患者の合併症精査や管理
・遺伝性腎疾患（多発性嚢胞腎・ファブリー病など）
・膠原病（全身性エリテマトーデスや関節リウマチなど）及び各種自己免疫疾患（IgA血管炎やANCA関連腎炎などの血管炎を含む）に伴う腎疾患
・糖尿病など代謝性疾患に伴う腎疾患
・骨髄腫など血液疾患に伴う腎疾患
・各種の血清電解質（ナトリウム・カリウム・カルシウム）濃度の異常
・酸塩基平衡の異常（尿細管性アシドーシスなど）
・各種の浮腫性疾患（特発性浮腫を含む）
・水分調節の異常（尿崩症など）
・尿酸代謝異常（先天性尿酸代謝異常を含む）
・本態性高血圧及び二次性高血圧（腎血管性高血圧や原発性アルドステロン症など）とそれに伴う腎障害
・妊娠に伴う腎障害
・腎臓移植予定患者の移植準備及び移植後の管理

３．診療体制

(1) 外来診察スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	初診	初診	初診	初診	初診
	再診	再診	再診	再診	再診
	再診	再診	再診	再診	再診
午後	再診	再診	再診	再診	再診
	再診		再診		再診

上記の通常外来のほか、火、木曜日は腹膜透析専門外来がある。また火、木曜日を中心に療法選択外来（保存期腎不全患者に血液透析、腹膜透析、腎移植について詳しく説明する外来）を行っている。

(2) 病棟スケジュール

	月	火	水	木	金
午前			腎生検		
午後		科長回診 腎生検カンファレンス	新入院カンファレンス	スタッフカルテ回診 血液浄化部カンファレンス	

東３階病棟において１年目および２年目の初期研修医が当科で研修している。当科としての病床数は17床である（2019年４月時点）。責任指導医１名、指導医１名、スタッフ医師４名の体制を基本としている。

(3) 血液浄化療法

当科および血液浄化部スタッフにより、血液浄化部及び病棟において、各種の血液浄化療法を行っている。現在、通院の維持血液透析は行っていないが、今後腹膜透析との併用患者に対してのみ通院透析を行う予定である。主に、慢性腎不全患者の血液透析・腹膜透析導入、維持透析症例の外科処置等に伴う入院中の血液透析・腹膜透析、院内発生の急性腎障害への緊急透析などを行っている。それ以外にも、自己免疫疾患や免疫性神経疾患に対するアフェレーシス、肝不全に対する血漿交換療法、血液型不適合例における腎移植前の血漿交換療法、炎症性腸疾患における白血球除去療法などを必要に応じて施行している。

４．診療実績

(1) 外来診療実績

当科の外来診療は、内科西外来にある診察室で行っており、平成18年度に１ブースから２ブースへ、平成30年度に３ブースへ拡大した。診療対象疾患としては、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、糖尿病性腎症、急性腎障害、慢性腎不全、膠原病・自己免疫疾患などである。IgA腎症に対する扁桃摘出・ステロイドパルス療法の導入、先進医療の積極的導入（多発性嚢胞腎に対するトルバプタン投与、難治性ネフローゼに対するリツキシマブ投与など）を推進している。平成30年度外来患者数は延べ14777名で一日平均患者数は60名であった。

(2) 入院診療実績

平成30年度当科病棟への新入院患者数は323名、延

入院患者数は5551名であった。当科の業務として、他の診療科へのサポートは大きなウエイトを占める。共観患者数は402名で、その診療科別内訳を表1に示す。

(3) 腎生検実績

腎生検は腎疾患の治療方針決定の上で大きなウエイトを占める。平成 30 年度の腎生検患者の組織診断名と人数を表2に示す。

(4) 治験実績

各種腎疾患治療の臨床研究が進行中である（一部のみ)。

・JTZ-951（いわゆるHIFスタビライザー）第Ⅲ相臨床試験―腎性貧血を伴う保存期慢性腎臓病患者を対象としたダルベポエチンアルファとの比較試験―
・RTA402（バルドキソロンメチル）第Ⅲ相臨床試験－糖尿病性腎臓病患者を対象としたプラセボ対照ランダム化二重盲検 比較試験－

(5) 教育普及活動

学会活動、講演会などを通じて地域診療の中で CKD についての教育普及活動を積極的に行っている。具体的には、慢性腎臓病患者に対する市民公開講座や啓発活動を行うとともに、新規治療薬が保険適応になった多発性嚢胞腎に関する患者勉強会を積極的に行うなど患者教育に力を入れている。また地域の医療関係者を対象とした勉強会（慢性腎臓病地域連携勉強会）も定期的に開催している。

５．その他

本院は日本腎臓学会教育認定施設、日本透析医学会認定教育施設であり、腎臓内科は内科認定医32名、内科総合専門医15名、腎臓専門医24名、腎臓指導医3名、透析専門医16名、透析指導医3名、腎移植認定医2名を擁する。

倫理委員会申請による主な臨床研究のテーマは以下のとおりである（一部のみ)。

・標準化腎生検組織評価法の確立
・ファブリー病腎合併症の早期マーカーとしての尿沈渣検査の可能性についての検討
・我が国における慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease: CKD）患者に関する臨床効果情報の包括的データベース構築に関する研究（J-CKD-DB研究）
・腎臓病患者における血液・尿中Rubiconの検証
・移植時生検を用いた腎移植レシピエントおよびドナーにおける予後規定因子の同定
・超解像度顕微鏡を用いた新たな腎生検病理診断法の確立

表1　平成30年度院内共観（症例数）

心臓血管外科	68
泌尿器科	64
循環器内科	48
消化器外科	32
消化器内科	29
免疫内科	21
神経内科・脳卒中科	20
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	17
産科婦人科	15
糖尿病・内分泌・代謝内科	13
眼科	13
高度救命救急センター	12
呼吸器外科	11
小児科	9
皮膚科	7
血液腫瘍内科	6
整形外科	6
脳神経外科	3
老年・総合内科	3
呼吸器内科	3
精神科	1
形成外科	1
合　　計	402

表2　平成30年度腎生検患者（症例数）

IgA腎症	14
ループス腎炎	7
膜性腎症	6
巣状分節性糸球体硬化症	5
微小糸球体病変	5
紫斑病性腎炎	4
微小変化型ネフローゼ症候群	4
Fabry病	2
顕微鏡的多発血管炎	2
糖尿病性腎症	2
半月体形成性糸球体腎炎	2
良性腎硬化症	2
Nephrocalcinosis	1
Sjögren症候群	1
Thrombotic microangiopathy(TMA)	1
AL アミロイドーシス	1
感染関連腎症	1
合計	60